

日本機械学会東海支部

―名古屋大学―が講演会

未来社会と減災への備え

日本機械学会東海支部(名古屋大学工学部内)主催の第67期総会・講演会と見学会が同大学東山キャンパスにて行われました。

特別企画「未来社会をどうする!」〜すべての人の移動を楽しく、スマートに〜をテーマとした講演会では、パーソナルモビリティ(次世代型電動車椅子)のベンチャー企業を立ち上げた名古屋大学出身の福岡宗明氏を講師に迎え、ベンチャー立ち上げの話から新製品企画開発に関するものまで、参加者の質問に答えながら進められました。

講演会後は、参加者それぞれが興味のある大学の3つの研究拠点へと移動しての見学

会が行われました。研究拠点の一つ、減災館(減災連携研究センター)では「先端研究・地域啓発・対応拠点の3つの機能で

巨大災害に備える減災館」と題し、減災館の仕組みと役割を参加者にレクチャー。最先端の減災研究プロジェクトの解説がされるとともに、南海トラフ巨大地震が発生した時の高層ビル内での揺れを再現した地震応答体感装置「BiCURI」も体感。万が一に備える心構え、対策についても説明がありました。

名古屋大学の 教授であり見学会スタッフ

の原進さん(47) 塩釜口は「名古屋大学では皆さまの生命や生活にかかわる大事な研究も多数行われています。減災館のような一般の方に向けた公開施設もありますので、ぜひ足を運んでください」と話していました。



減災館で地震応答体感装置の説明を受ける参加者